

# Trelleborg社 Wheel Systems事業 の買収について

---

2023年5月12日  
代表取締役社長 山石 昌孝

社長の山石でございます。

これより、Trelleborg社 Trelleborg Wheel Systems事業（以下TWS事業）  
買収完了についてご説明します。



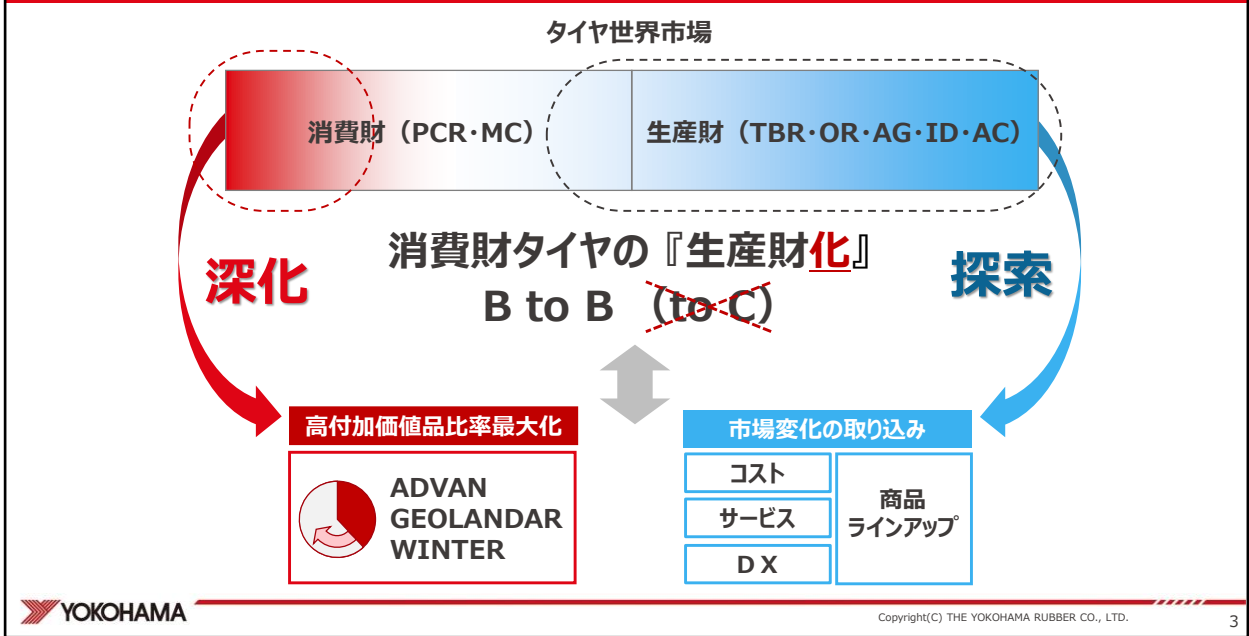
YOKOHAMA Transformation 2023

深化×探索 による 変革

横浜ゴムは2021年、中期経営計画として「YX2023」（ヨコハマ・トランスフォーメーション・ニーゼロニーション）を発表いたしました。

「YX2023」は2021年から2023年の3か年の計画となっており、「Y」はヨコハマ、「X」はトランスフォーメーション、つまり横浜ゴムを深化と探索で変革する、という意味でございます。

「YX2023」では我々が強みとして持っている既存事業の「深化」と、100年に1度の大変革期である市場変化の取り込み、つまり「探索」を同時に推進することにより、過去最高の業績達成を目指します。



今後のタイヤ市場についての我々の考えるシナリオをご説明します。

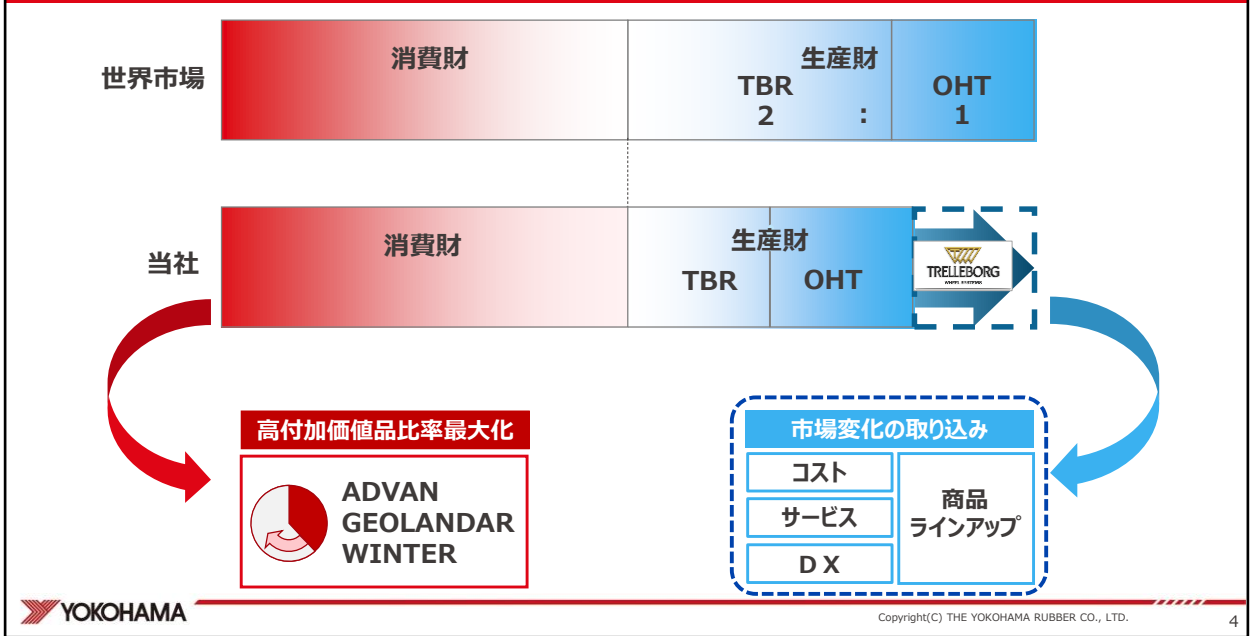
タイヤ市場は乗用車用タイヤなどの「消費財」とトラック・バス用、農業機械用タイヤなどの「生産財」の2つに分かれていますが、現在のその市場規模はおおよそ半々となっています。しかし、今後「CASE」「MaaS」「DX（デジタル・トランスフォーメーション）」が浸透するにつれ、個人所有の車が減少し、人や物の移動を支えるインフラ車両の増加が予想されます。つまり、お客様が個人から法人へと変化することでタイヤ市場における消費財タイヤの生産財化が進むのではないかと考えております。

このようなタイヤ市場の変化に対し、当社は「深化」と「探索」の2つのアプローチによる戦略を推進してまいります。

消費財タイヤにおいては「高付加価値品比率最大化」を掲げ、ウルトラハイパフォーマンスタイヤ、SUV・ピックアップトラック用タイヤ、ウィンタータイヤの3つのカテゴリに注力し、当社の「ADVAN」、「GEOLANDAR」、「ウィンタータイヤ」の販売を「深化」させます。

一方、生産財タイヤにおいては「コスト」、「サービス」、「DX」、「商品ラインアップの拡充」をテーマに掲げて市場変化を「探索」していきます。

# 買収の目的



次に世界市場と当社の足元の現状を見ますと、世界市場は消費財と生産財の構成比が1：1であるのに対し、当社は2：1と消費財に偏った構成になっています。また、生産財の内訳は、世界市場はTBRが2に対して、OHTが1ですが、当社はTBR/OHTが1：1となっていて、TBRの比率が低く、収益率が悪いことが課題でした。

当社のタイヤ生産財の課題について、今回の買収により、OHTが2、TBRが1となり、全体の消費財・生産財バランスを適正化するとともに、生産財では市場に比べ、より収益力の高い構成比になります。

## 本取引の概要



買収対象	Trelleborg Wheel Systems Holding AB (TWS) の株式100%
企業価値	2,074百万ユーロ <small>※本買収は、業績連動型のアーンアウト方式を採用しており、追加の取得代金として、最大で60百万ユーロが設定されていました。基準となる2022年の決算数値の結果、かかる追加取得代金は約34百万ユーロにて確定しています。</small>
売上高	1,249百万ユーロ (132億77百万スウェーデンクローナ・約1,725億円/2022年度実績)
EBITDA	218百万ユーロ (調整後/2022年度実績)
EBITDAマルチプル	約9.5倍 (調整後EBITDAベース)
買収合意日	2022年3月25日
買収完了日	2023年5月2日
資金調達	自己資金 (政策保有株式の売却資金等) および みずほ銀行借入金 みずほ銀行借入金は、当社の強固な財務体質及びバンクフォーメーションを活用し、長期固定かつ低利の借入に借り換えを予定。



本取引の概要です。

企業価値は20億74百万ユーロで、TWS事業の2022年度売上高は12億49百万ユーロ、調整後EBITDAは2億18百万ユーロ、EBITDAマルチプルは約9.5倍です。

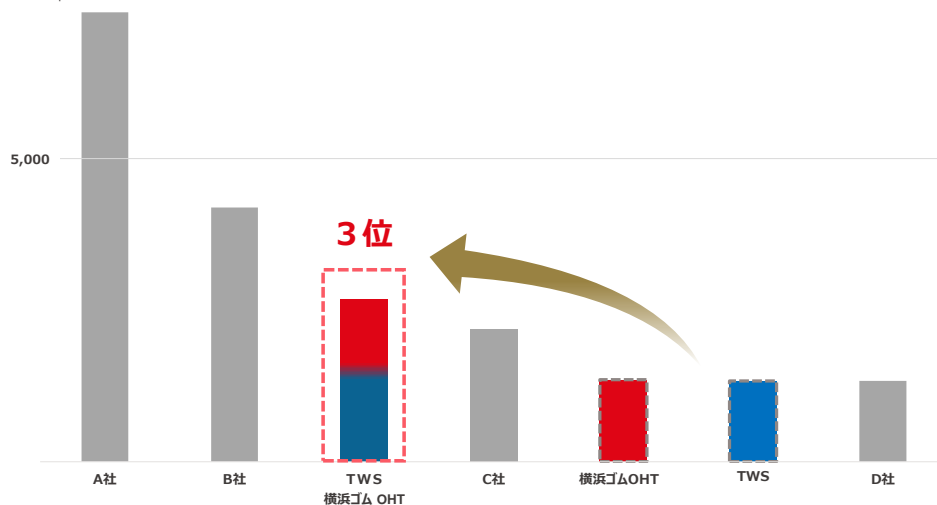
資金調達については資本効率の向上を目的として実施した政策保有株式の売却資金、および、みずほ銀行からの借入金で賄います。みずほ銀行借入金は、当社の強固な財務体質およびバンクフォーメーションを活用し、長期固定かつ低利の借入に借り換えをする予定です。

## TWS参加後：市場ポジション



### オフハイウェイタイヤ（OHT）市場 売上ランキング

単位：MU\$



※当社推定



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

6

TWS事業の買収後の姿について、ご説明します。

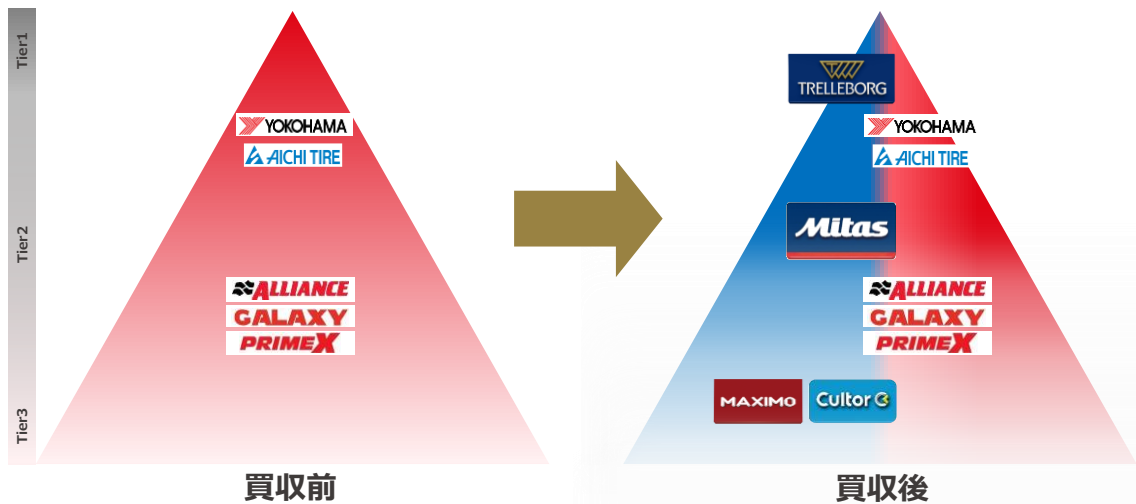
まず、OHT市場でのポジションですが、当社推定では2022年度ベースでOHTでのランキングは3位になります。

また、AGで1位に、IDで2位、になると想定され、この市場でのポジションを競争優位につなげてまいります。

## TWS参加後：オフハイウェイタイヤ(OHT)ブランド体系



### ◆商品ブランド体系完成



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

7

まず、ブランド体系ですが、AG/IDのカテゴリにおいて、松・竹・梅、全てのブランドがそろいます。

これにより、販路対応がしやすくなるとともに、景気変動に対しても、耐性を持つことが出来ます。

なお、Trelleborgブランドについては、15年間の無償ライセンスを受けますが、その間にYOKOHAMAブランドに置換していきます。

# TWS参加後：OHT商品ポートフォリオ



	Agriculture	Construction	Earthmover and Mining	Forestry	Lawn Garden & Turf	Material Handling	Truck (off-highway)	Two-wheelers	Rims
Tier1	YOKOHAMA AICHI TIRE	✓	✓			✓	✓		
Tier2									
Tier3	ALLIANCE GALAXY PRIME X	✓	✓	✓	✓	✓	✓		
<b>TWS参加後</b>									
Tier1	YOKOHAMA AICHI TIRE TRILLESORG	✓	✓	✓	✓	✓	✓		✓
Tier2	MILES ALLIANCE	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	
Tier3	GALAXY PRIME X Cultor G MAXIMO	✓	✓	✓	✓	✓	✓		



次に商品ポートフォリオです。

今回、TWS事業が加わることにより、各車種別に松・竹・梅の商品がそろい、このタテ・ヨコの商品レンジの広さが我々の強みとなると考えます。



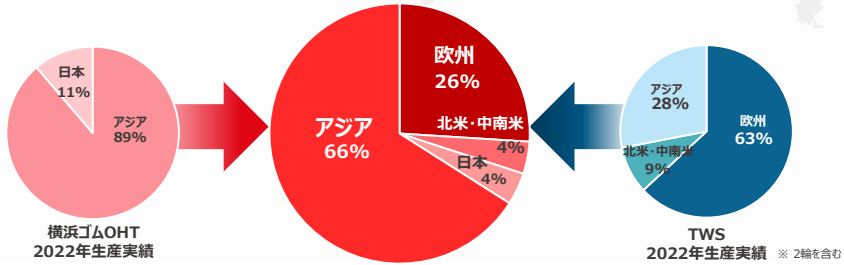
# TWS参加後：OHT生産体制



## ◆世界22の生産拠点



TWS参加後・地域別生産量構成比



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

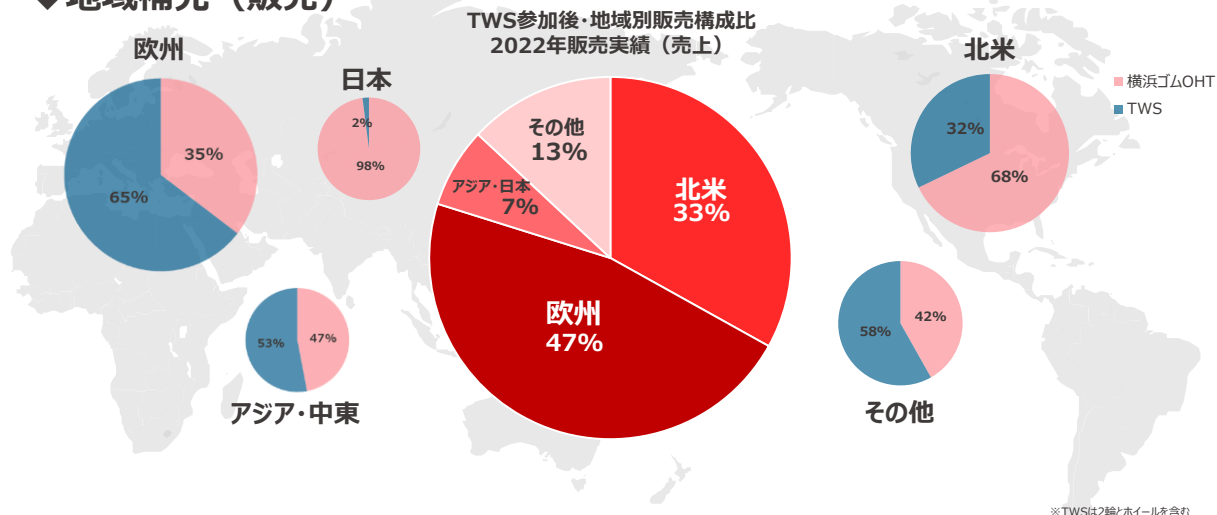
これまでのYOHT事業は一部が日本とイスラエルから、そして大部分がインドからの輸出でしたが、買収により大需要地の欧米での生産拠点が加わり、地産地消の恩恵を受けやすくなります。

# TWS参加後：OHT販売構成比



## ◆地域補完（販売）

TWS参加後・地域別販売構成比  
2022年販売実績（売上）



※TWSは2輪とホイールを含む



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

販売についてはこれまではTWS事業は欧州に強く、YOHTは北米でまさっていました。それを今回の買収により2大市場である欧米で補完し合い、販売力の相互強化が図れると考えます。

# TWS参加後：サービス・DX



## ◆interfit

専門チームによるタイヤサービス 21ヶ国、83拠点



### カスタマーサービスプラットフォーム

注文管理  
プラットフォーム



フィールドサービス  
管理アプリ



顧客管理



B2B・B2C  
オンラインポータル

## ◆ATMS

データによるトラクターの最適パフォーマンスを実現

荷重、圧力、温度などの  
作業条件をリアルタイムに検知し、  
常に最適な車両設定を提案



## ◆TPMS

建機/港湾車両向けデジタルツール

空気圧/温度の常時モニタリング



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

11

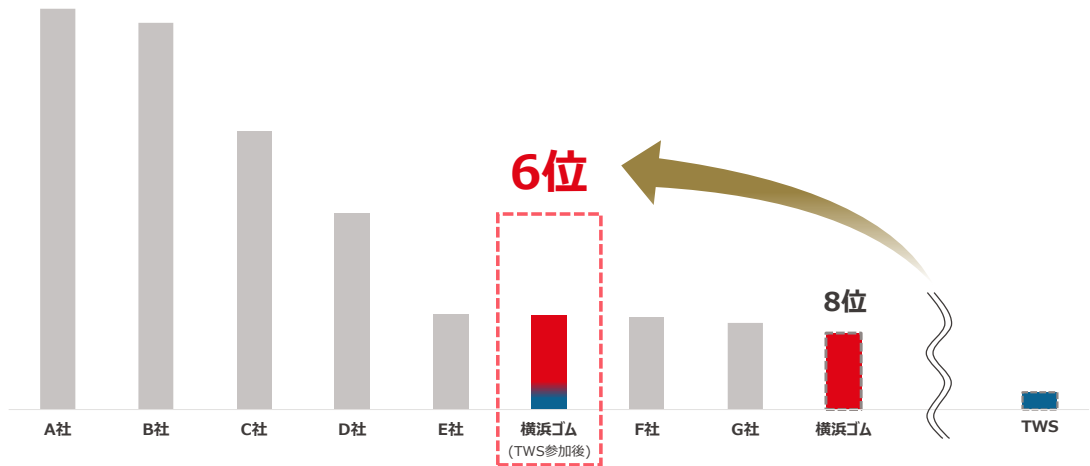
サービスは今はIDが中心ですが、21カ国、83拠点でサービス体制を整えています。今後はAGにも拡大を図っていきます。

DXではAGにて荷重、圧力、温度などの作業条件をリアルタイムに検知し、最適な車両設定を提案するツールの開発をしています。ORについては、当社同様TPMSを導入しています。

## TWS参加後：市場ポジション（タイヤ全体）



### 世界タイヤ市場 2022年売上ランキング



※当社推定



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

12

そして、2022年度のタイヤ各社の売上高を単純合算すると横浜ゴムとTWSトータルで売上高ランキングは業界6位となります。

## 2023年度業績修正



単位 (億円)	2023年計画	前回公表	増減	増減率	YX2023 2023年目標
売上収益	10,000	9,000	+1,000	+11.1%	7,000
事業利益	845	730	+115	+15.8%	700
事業利益率	8.5%	8.1%	+0.4%	-	10.0%
営業利益	870	730	+140	+19.2%	-
当期利益	570	460	+110	+23.9%	-
ROIC	5.2%	5.5%	▲0.3%	-	7% (2023年目標)
ROE	9.0%	7.7%	+1.3%	-	10% (2023年目標)
D/Eレシオ (ネットD/Eレシオ)	0.73倍 (0.63倍)	0.33倍 (0.21倍)	+0.40倍 (+0.42倍)	-	0.4倍 (2023年目標)
営業CF	1,225 (3年間累計: 2,300)	1,025 (3年間累計: 2,100)	+200	-	2,500億円 (3年間累計)

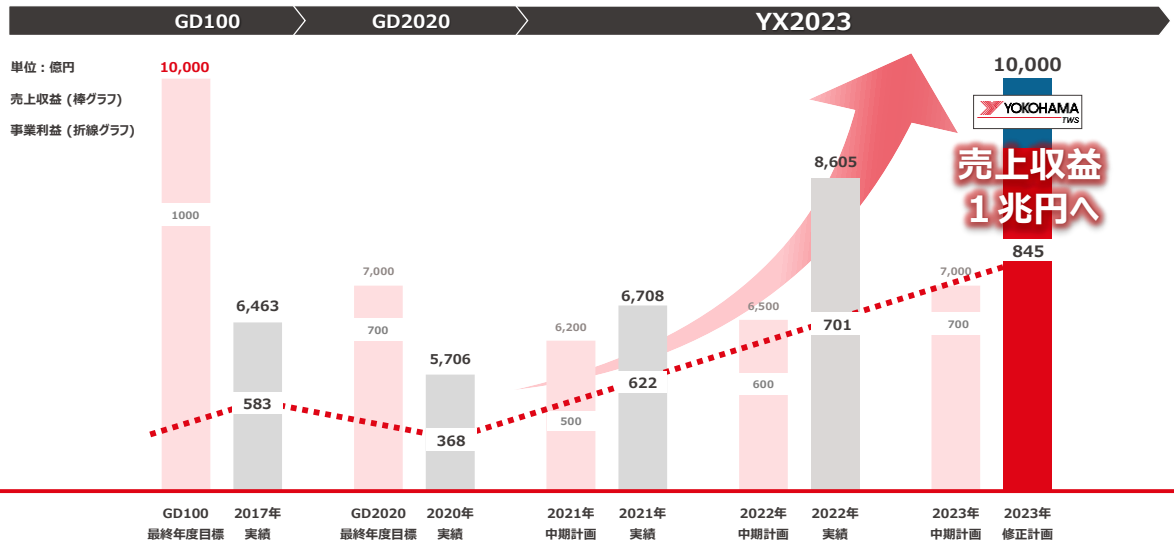
さて、買収完了を受け、今年度の業績計画を上方修正します。

売上収益は1兆円、事業利益は845億円、営業利益は870億円、当期利益は570億円を見込んでおります。

# 中期経営計画



## 過去100年の集大成



Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

当社は創立100周年の2017年に、売上高1兆円／営業利益1,000億円を目標としましたが、果たせませんでした。

TWS事業買収を機に今年度はまず売上収益、1兆円を達成して、収益を伴った次の成長へのステップに向かってまいります。



私からの説明は以上となります。  
引き続き当社へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。